

NPO 法人環境市民 理事会 第7期 第8回（通算72回）理事会 議案書

日時：2015年4月8日（水）午前10:00-12:30

場所：環境市民事務局

出席者：早瀬、牧村、上田、内田、風岡、下村、白石、杵本、竺、（11:30 退席）、
原田

委任状提出者：植田、片山、在間、松田（以上、議長へ委任）

出席者10、議長委任6で定足数12人を満たす。

議長：内田さん

議事録係：佐藤

議事録署名人：下村、杵本

■報告事項

1) 主な活動の情報共有（口頭報告）

環境首都創造ネットワーク [風岡]

環境首都創造 NGO 全国ネットワークで地球環境基金の助成を受け、エネルギー政策を中心とした総合的な自治体の政策立案を助けるためのデータベースを作成。

Web で公開した。このツールをブラッシュアップしつつ利用する活用を進める。

また、環境首都創造フォーラム等を開催もしている。

質疑は、昨年度の活動報告と併せて行う。

野の塾（市民向け講座）3/17（火）和菓子づくり 3/28 野鳥 [下村]

新入会員増加キャンペーンとして実施。

広報期間が短く、参加者は少なかった。

和菓子は入会3名。野鳥は0名

杵本：これまでもやってきた楽しい系の企画は、良いか。しかし広報期間が短かった。

下村：入会したのは、野の塾に何回か来ているリピーター。

内田：前から来ていた人？

下村：ここ数年の企画に来ていた人。

2) 外部評価委員会開催（3/31）

事業報告のところで行う。

3) 2015 年度通常社員総会 日時決定

日時：6月20日（土）午後 場所：京エコロジーセンター（京都市伏見区）
上記で決定。

■ 討議事項

2015 年度の活動、組織体制のあり方について

（参考情報）

2014 年度活動の概要（PPT）[杵本]

持続可能な社会を創るという目標を5つのミッションに分けている。

環境共育

環境教育リーダースタートアップ講座[杵本]

以前から実施していたものがエコセンからの委託となった。

環境教育のリーダーを育成する講座。

以前からの実施実績をもっと把握したいと考えている。

エコスクール[下村]

デンマーク初の ESD プログラム。

日本ではゴミ等のテーマが多いが、持続可能な消費等を扱うこともできる。

文科省のエコスクールとは別物。

国際的に広まりつつあるプログラムで、これからも継続的に実施していく。

厚木市では温暖化防止対策実行計画にも取り入れられている。

環境首都創造フォーラムの自治体にもやってもらいたいと考えている。

生物多様性教育[杵本]

暮らしの影響や日常生活で何ができるかという点ができるプログラムを作成中。

プログラムはできたが、試験実施がまだできていない。

ご紹介いただければ

原田：コマ数、費用は？

杵本：最低2コマからできる。今は試験段階で無料。

原田：紹介できるかも。

内田：教室の中で実施できる？

杵本：出来る。もちろん外での観察の後にも出来る。

白石：龍谷大学関連を紹介可能かもしれない。

野の塾[杵本]

秋に鍋物野菜をテーマに、農業系の講座を実施。

鞍馬山の観察会も実施。

ライフスタイル

グリーンコンシューマー[杵本]

秋に全国調査を実施。

現在のスーパーの状況を調査。

今年度以降の持続可能な消費の活動のきっかけとしてネットワーク育成も目的としている。

活動資金はクラウドファン্ডで実施した。

環境マイスター[杵本]

自動車事業者への実施を今年も継続実施。

広がってはいるが、それを活かせていないという課題もある。

グリーンウォッシュ[杵本]

防止ガイド3冊を作成。

現在、企業にグリーンウォッシュ防止のグループ作成を働きかけている。

エコシティ

環境首都創造ネットワーク[杵本]

NGO、自治体、研究者のネットワーク

全国フォーラムを京丹後市で実施。

社会的提言を作成。

今年度は鳥取県北栄町を予定。

モジュールについては、実際に利用するモデル自治体を募集。

北栄町が手をあげているので、北栄町にあった組み合わせを検討する予定。

地域別サミット[杵本]

地域別で正または副首長が集まり開催。

セミナーとフォーラム[杵本]

セミナーは例年通り、フォーラムはモジュール公開に併せて実施
東京では、専門性のある人もたくさんきた。

福知山市[杵本]

改定作業を実施。

交野市[下村]

策定後の動きを支援中

国際協力

緑の英会話[杵本]

20年近く継続で実施中

できれば他の活動もしたいと考えている。

NGO 海外スタディプログラム[有川]

外務省プログラムを利用

エシカルコンシューマーオーストラリアに滞在。

インターネットを介したエシカルコンシューマー活動を進めている。

その他現地 NGO インタビュー等を実施。

今年度、受け入れ先 NGO を呼んでのフォーラムを検討中。

情報発信

マガジン[杵本]

継続して、発行中。

SNS、Web[杵本]

現在、改善中。ビュー数は悪くない。

ラジオ[下村]

ボランティアで実施中。

寄付受付[杵本]

受け入れの窓口を多様化している。

会員増加[杵本]

キャンペーン等を実施中。

講師派遣[杵本]

パンフを作成。できれば、理事のご協力をお願いしたい。

遺贈寄付[杵本]

パンフレットを作成。弁護士、公認会計士等に配布。

環境法律家連合でも現在、遺贈寄付に取り組んでいる。

弁護士を通じて、問い合わせが一件あり。

早瀬：遺産の全額でなく一部を寄付しても良い人と聞くと1／4もいる。

そこに働きかけると良い。

原田：公益財団をかませで不動産遺贈は可能か？

早瀬：不動産は聞いたことがない。ハードルは高いかも知れない。

ファンドレイジング[杵本]

現在、企業対象グループと会員増グループで活動中。

プロジェクトの進め方では、分権化をイメージとしては考えている。

早瀬：ピラミットの図は、リーダー、コーディネーターボランティアよりも、

ディレクター、マネージャー、オペレーターの方が良いのでは。

ボランティアがリーダーとなることもある。

外部評価委員[杵本]

弁護士の折田先生と府立大、宗田先生をお願いした。

活動が続いていない団体が多い中、継続できていることは評価できるとのこと。また、資料のような3つの提案受けた。

全体質疑

牧村：遺贈寄付パンフはどこへ

杵本：弁護士事務所等

早瀬：信託銀行が良い。資産家が相談に行くので、信託銀行の人に知ってもらうことが重要。自分の生活費を残して、預かってもらっている人がいる。

原田：斎場系は？

早瀬：遺書を書く段階にアプローチした方が良いか。

杵本：終活NPOが良いかと思うが、まだ選定できていない。

内田：公証人役場、自治体は？

早瀬：多分中立性から置いてもらえないだろう。

事務局の体制と 2015 年度事業計画案と予算の試算（資料 1-1、1-2）

2015 年度事業計画案について

リーディングプロジェクト

首都創造ネットワーク[有川]

活動は継続。

環境首都コンテスト[杵本]

分野別で復活する予定。検討中。

グリーンウォッシュ防止[有川]

今年度中に企業グループでの宣言まで行きたい。

環境マイスター[有川]

継続実施予定

グリーンコンシューマー活動の全国展開[杵本]

地球環境基金の助成金が取れたので、グリーンコンシューマーだけでなく、持続可能な消費の意識を深めて行きたい。

全国でのネットワークを作成したい。

3年がかりで、携帯端末でのアプリを作成したいと考えている。

電力評価に関する研究会[有川]

新規事業。今年度はパワーシフト宣言を集めている。

今後はどこがオススメかという情報を伝えて行きたいと考えている。

全国でのネットワークで実施している。

水 Do プロジェクト[杵本]

使い捨て型飲料容器をやめて水道水を飲むプロジェクト。

元々、FoE を中心としたネットワークで実施。

中心人物の瀬口さんが FoE から環境市民へと移籍を希望しているのにと

もない、環境市民の重要プロジェクトとして掲載されている。

エコスクール[下村]

今年度は京都の光華学園で実施を予定。

環境教育リーダースタートアップ講座[有川]

今年度も実施。

アドボの学校[杵本]

開発問題や TPP に関わっていた人を中心にした議論で、アドバカシー力が足りないという話が出た。

地球環境基金への申請が通ったので、講座を実施する予定。

次年度以降、高校大学向けのプログラムを作成する予定。

生物多様性と暮らしをテーマにした環境学習プログラムの開発と普及[有川]

昨年に続き、試験実施、普及を予定。

自然エネルギー学校[有川]

昨年に続き実施。

広報関係[有川]

今年度は、ファンドレイジング PJ で広報戦略作成を予定。

それを元に実施して行きたい。

環境ひろば[有川]

誰もが参加できると掲げているがここ数年実施できていない。

能村氏を中心に実施中。

春に講座を一件実施した。

海外の自治体・NGO・国際機関などとの交流[杵本]

ドイツ領事館が、気候変動防止プログラムの交流をしたいということで話し合いを行った。

気候ネットワーク等に加わってもらい、京都で実施を考えている。

やる場合には10～11月を予定。

原発のない社会をつくろう！プロジェクト[有川]

毎年3月にデモを実施。環境市民も実行委員会のメンバー。

次年度からは、パワーシフトキャンペーンと併せてできれば。

COP21に向けて[有川]

気候ネットワークより全国的な盛り上げのパレードをやりたいと相談あり。環境市民も協力を予定。

ファンドレイジング[有川]

継続実施の予定。

質疑

杵本：5月の理事会に正式な計画書を書くその前段の議論を

早瀬：グリーンコンシューマープロジェクトに、web でアプリを通じた情報提供とあるが？個別の商品が対象？

杵本：日常的な商品を中心に一般的なガイド作成を予定。

一定の基準に合致した商品は、これというものも載せたい。

内田：例えば、中身だけでなく、包装の問題もあるが？

杵本：やりすぎると大変。実施可能な範囲内で考えたい。

一定の基準を設ける、レイティングする等も考えられるが、まだ未定。

商品が、変わっていくことに対応できるかという課題がある。

まずは、全国ネットを形成して事業を進めていく。

下村：商品も商店もローカルがあるので大変だ。

予算について[風岡]

収支の計画が固まっていない段階なので正式な物は5月に。

確度が高いものでの試算したもの。

人件費[風岡]

NGO ネットは、事務局としてのアルバイト代等が出ているもの
役職は有川がチーフ、理事の予定。

風岡の人件費は非常勤講師をしているので少し減らしている。

原田：風岡は理事を抜ける？

杵本：当初からその予定だった。

風岡：引き継ぐにあたり、チーフの役割は何であるとするのかも含めて検討が必要だと感じている。

管理費、必要経費[風岡]

資料の通り。年間 1085 万円が必要な経費。

収入[風岡]

資料は、必要経費を除いた収入。これで上記の必要経費を賄う。

会費は、今後の働きかけを考慮し少し多めに計上している。

地球環境基金からの分は、他団体実施の事業のアルバイト代等で落ちる収入を含めて計上している。環境首都創造については事務所経費も計上している。

環境コミュニケーション[杵本]

京都府への助成を申請中。

それが通ると数字が一桁変わるか。

事業者は1事業者で計上している。これも増える可能性がある。

EE リーダー[風岡]

エコセンと吹田市については取れる可能性が高いので入れている。

生物多様性

生物多様性[風岡]

松下幸之助財団の助成を受けて実施している。

Goodoo[風岡]

実績が短期だが、現在からの予想。これより少し多くなるかも。

寄付[風岡]

今後、働きかけを考慮し、少し多めに計上。

講演[風岡]

パンフレットの効果を見込み、多めに計上。

杵本：講演寄付は、現状で確定しているものもあり、大丈夫だろう。

Panasonic NPO サポートファンド[風岡]

会計単位が年度でなく、年なので、期間 3/4 で計上。継続採択の可能性もあり。

委託・補助・助成・クラウドファンドについて[風岡]

これを除いた、現状の金額では、まだ黒字にならない。

黒字になるために追加で必要な金額を計上している。

だいたい、あと 260 万円くらいの受託額が必要な計算となる。

予算質疑

竺：環境市民滋賀で学生と自然観察会等を実施してきたが、環境市民滋賀事務所は実質的には消滅しているのか。

杵本：負担が大きかったので、閉鎖している。会員さんが活動することは歓迎している。かつてあった法律等のしぼりは、今はない。

竺：活動場所としては、使えるか。

早瀬：事業報告の中に位置付けはあるか。

竺：計画の中にある。であれば、なんらかの報告が必要になるだろう。

早瀬：会費見込みが少し厳しいのでは。

杵本：委託については、クラウドファンドなら利益率が高いので、270 万円よりは、ハードルが少し下がるだろう。

原田：コピー機は買わないのか？安くなっているので買った方が得かもしれない。

早瀬：残債の問題があるのでは。

原田：税理士さんは？20 万円くらいでやってくれそうなこともあるが。

風岡：人間関係上の問題もあるかもしれないが検討する。

早瀬：家賃は？空き部屋が増えてくると安くなるが。

杵本：事務所を他所とシェアできないかと考えている。

早瀬：google インパクトチャレンジは？

最終候補に残るだけで、2500 万円。

選ばれると 5000 万円。来年あれば狙ってみてはどうか。

杵本：現在の予算案は、最低限見込める骨子のみ。
もっと肉付けしたものを5月までに提出したい。

次期役員候補について[風岡]

次回理事会で役員を改選する。新規候補者は次回までに出す必要がある。

杵本：現在、理事継続意思の確認中。在間先生が抜けるかもとのこと。
西村仁志さんも京都に戻る機会が少ないのでと辞意を伝えてきている。
在広島の活動も県としており、慰留中。
もう2人新しい方を入れることは可能。ご紹介をお願いしたい。

4) 瀬口さんからのお申し出に関して[杵本]

瀬口氏が FoE を退職するにあたり、活動継続の肩書きとして、環境市民として活動したいと希望してきている。東京での窓口にもなる。現状では給与は不要とのこと。

環境市民の現状の選択肢では理事・幹事・アドバイザーという立場になる。
そこに専門員、研究員等の肩書きを作れないかという話を受けている。

質疑

下村：気候ネットワークでは研究員という肩書きがあるが、定款等に裏書きはないとのこと。

杵本：瀬口さんは、環境省系の委員会等にも入っている。ジャーナリストとしても活動している。

早瀬：事務局体制の一部の話ならば定款ではなく、理事長の決定でもよいのでは？

原田：事務局として問題なければ良いのでは。

杵本：では研究員という位置付けで、良いですね。
彼女の話だけでなく、外部の人で、環境市民をうまく使ってくれる方についてのパイロットケースとして実施したい。

白石：今回の年次計画では、ネットワークやプラットフォームにシフトしているように見える。どういう仕組みでネットワークを構築するかという話を考慮した方が良い。

その中で、外部の人を使う際に、研究員という肩書きやプロジェクト名をつける等やり方は良い方向性。名称は研究員、専門員辺りは無難か。
JICA でも自前予算で活動する人が似たような名前を名乗っている。
事業の方向性からも、こちらから、外部の人に名乗れるということを積極的に提案してはどうか。

杵本：そうする。

3) グリーン連合（仮称）設立への賛同に関して（資料2）[杵本]

環境文明 21 を中心に議論してきたが、実際に作るようになった。

外務省と NGO の関係をモデルにしている。

6/20 の世界環境デーでの発足を目指している。

環境省との交渉力向上、基金への働きかけ、アドボカシー、専門記者育成、専門政治家育成等を目指していく。

500 くらいの団体に対して呼びかけ人が呼びかける形。

賛同団体には同時には、会員になってもらう。

実施段階にきたので、環境市民としての意思決定が必要になっている。

質疑

原田：良いでしょう。

早瀬：アドボカシーを大切にしている団体が多いか？

杵本：それだけでなく、資金面等を含めた共通益を目指したい。

牧村：今までこういう動きは？

杵本：記憶にある限りではない。

白石：名称が気になる。センターと支部をイメージさせる連合よりも、ネットワークや協会では？

全員：賛同団体になるのは OK

2) 通常社員総会について

・内容のアイデア出し

去年はワールドカフェを実施。

関心のある人ごとにグループに別れて議論した。

それまでは講演会等が多かった。

原田：楽しい WS はどうか。

友人を連れてくるルールにしてはどうか？会員募集と絡めては。

早瀬：ワールドカフェは、1 テーブル 4 人でやるのが味噌。

物を決めるときや気づきを促すには、良いのでは。

杵本：みんなでこういう活動をしてはという話をしてみても？

下村：ワールドカフェは、行って戻るプロセスがないと盛り上がらない

杵本：環境学習プログラムとかはどうか。

理事の話なんかはどうか。

佐藤：有川さんの報告会は？

杵本：それは別途やりたい。
早瀬：少し時間を取るのは良い。本編は別にしてもその宣伝報告をしては。
杵本：参加型にしたい。会員が何かをいう機会が必要では。
牧村：新規プロジェクト3つをワールドカフェのテーマにしては。
早瀬：理解も深まり良いだろう。
杵本：エシカルコンシューマーもテーマにできるか。
新規プロジェクトをテーマにするのが良いか。
では、新規テーマを対象にワールドカフェを実施するか。
下村：去年の成果がやりっぱなしになっている。フィードバックが必要では。
内田：ではワールドカフェの方向性で。

その他質疑

牧村：新規のプロジェクトが出てきているが、フォローが少し足りないか。
現状で厳しい状況。ここから拡大する路線で大丈夫か。
杵本：書いていないだけで、やめているプロジェクトはある。
ただし、言われている懸念はもっとも。
3つの中心プロジェクトから派生した部分がある。
絞り込んだ方が良いとは感じている。
全国系の活動が多くなっているのをどうするのかも含めて検討が必要。
内田：時間も人材も限られている。
杵本：どれだけ動けるのかというのはある。
大学院生等をプロジェクトに呼べないのかというのは考えている。
牧村：今までやってきたことを事業収入につなげるようなプロジェクトが必要
では。そういうフォロープロジェクトを考えてはどうか。
杵本：環境首都創造ネットの話もこの先で仕事にできればと考えている。
牧村：財政的な厳しさを踏まえると、もっと集中的にやってはどうか。
また、助けて欲しいというメッセージも大学等に送ってはどうか。一般
の人に財政が苦しいと言ってもイメージ面でよくない。
もっと身近な人に助けてもらってはどうか。
杵本：現在やってはいる。自治体のやりたくなる事業を提案できるかどうか。

早瀬：事業縮小で言えば、マガジンをやめるのが一番簡単では。
ただ、一方でアドボカシー力は弱くなる。
牧村：每期必ず赤字を出さないという話が必要。一方で投資は必要だが。

杵本：自主事業を増やすことが必要。

そこで基盤収入を得る方向で考えている。

牧村：事務局の人的予算を増やせないのか。

佐藤：実際には厳しい。人件費も削り出している。

早瀬：かなり厳しい状況だ。赤字は改善しないとイケない。

杵本：事務局体制を持たないという選択肢も考えている。

内田：事務局を持つのは事業のフォローにも重要。

早瀬：事務局があるので事業にテコが効く。その点も考えたほうが良い。

事務局が小さい団体もあるが、ボランティアが重労働になっている。

そういう体制が可能なのかは検討が必要。

内田：学校とのコラボは？来年度の話し合いを今頃からしないとイケない。

下村：京都市では、環境教育プログラムは環境モデル都市として実施している
プログラムがあり、入る隙がない。

杵本：来る人が対象でも良いか。

■確認事項

次回の理事会

日時：5月18日（月）15:00-17:00 場所：環境市民事務局

出席予定者（敬称略、順不同）：上田、花田、内田、松田、早瀬、下村、杵本、
風岡